

---

8月13日

れいと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

8月13日

### 【Nコード】

N5672A

### 【作者名】

れいと

### 【あらすじ】

誰でもよかった。かわりが欲しかった。一人がいやだった。その時に出会ったあなたとの話。

そう。あの日は雨だった。

雨の中声を押し殺して泣いたっけ。

泣いてるんじゃないよ。雨のせいだよ。って誤魔化すために。最後まで意地をはって素直になれなかった夏。

5月のある日。彼氏と別れた。もうすぐ嫌な梅雨。雨なんて大嫌い。嫌なことすべてを思い出してしまふ。

部屋の窓から外の景色をみる。薄暗くて雨の音が聞こえると考える事をしてしまふ。だから雨が嫌い。でもあいつとなら嫌いな梅雨にいつぱい思い出作って雨が降っても笑っていれると思った。そんな矢先にゆうきと別れた。

人を本気で好きになる事を教えてくれた人。本気で好かれてうれしいうって気持ちを教えてくれた人。好きじゃないメールも好きになった。だからこそ今のあたしは意味がないように思えた。

5月17日。晴れ。

今日はやけ酒してみた。嫌な事を忘れたい。だから友達ときた。そんな時あなたと出会ったんだよね。

飲んだ帰り道、友達がコンビニへ立ち寄った。飲みすぎたらしい。コンビニの外で煙草を吸いながら友達を待つ。見覚えがある車が通った。

「ゆうき…」

小さい声で呼んでみた。ゆうきの車かどうかはわからないが同じ車だった。

忘れるつもりが思い出して泣きだしてしまった。声に出さずに涙だけ流した。下をむいてしゃがみこむ。誰も泣いてるなんて気付かないだろう。そう思って泣いた。静かに…。

誰かがあたしを呼んでいる。顔をあげてみると知らない人。

『携帯忘れてったよ？はい。…泣いてるの？』

ありがとうございます。

その一言さえきちんと見えなかった。

あたしは居酒屋に携帯を忘れていたらしい。しばらくして友達が戻

つてきてタクシーを捕まえて帰って行った。

あたしは家が近くだから歩いて帰る。その人にもう一度お礼を言つと

『俺この後暇だし話きくよ？ちよつと話しない？』

正直誰でもよかった。一人になるのが怖かった。

ゆうきの事は話せなかった。そんなあたしをみた彼はくだらない話をしてくれた。

あたしは携帯を何気なくみた。一通のメールがきてた。ゆうきからだつた

【今からそつち行つていい？】

私は急いで帰ろうとした。いいよ。つてメールを返して立ち上がった。どうしたの！？つて腕を捕まれたけど振りほどいて走りだした。ごめん！ありがと！

そう言つと紙を渡されて

『なにかあつたら連絡して！』

って言われた。その紙を握り締めて走った。部屋に戻って明かりをつける。

どんなに待ってもゆうきはこなかった。

寂しさがつのる。

ふと目に入ったくしゃくしゃな紙。連絡してみた。

その日はあたしが寝付くまでずっと話してくれた。

彼の名前は恭。あたしの2個上。隣の市に住んでるのにあたしの住んでる市の駅の居酒屋で働いている。

恭ちゃんはあたしの事をアキと呼ぶ。アキラって男みたいな名前が嫌い。って言ったらアキって呼んでくれた。恭ちゃんが呼ぶアキって声が優しくて好きだった。

6月5日。曇りのち雨

恭ちゃんの家に行った。恭ちゃんと遊んでいたら雨が降ってきて恭ちゃんの家に行く事になったから。

恭ちゃんとあたしはその日に付き合った。ゆうきのかわりなら誰でもよかった。優しくてほっとけない恭ちゃんを利用した。

それから一カ月、毎日連絡をとった。

時間さえあれば会っていた。悲しくなつて泣いているとすぐきてくれた。あたしが恭ちゃんを本気で好きになるまで時間はかからなかった。

離れてるのが怖くてあたしは恭ちゃんの家になつた。あたしが帰ると恭ちゃんは仕事でいないけど料理を作って待っていた。待つてゐる時間は長く感じなかった。幸せな毎日だった。

休みがあれば一緒に買い物にも行った。

それにたまにノートで会話をしていた。夜居酒屋で働く恭ちゃんと、昼間働くあたしは時間が合わない時が多い。

恭ちゃんの字は綺麗であたしの字はくせ字で女の子字だった。

毎日楽しくて幸せだった。恭ちゃんがゆうきへの想いを消してくれ

た。

でもその幸せは続かなかった。その時はまだ知らなかった：

8月のある日、喧嘩をした。

あたしは怒って荷物をまとめてでていった。別れる別れないじゃなくて恭ちゃん家にいる事をやめた。それだけのつもりだった。

あたしは家に帰っても怒りがおさまらない。明日電話で文句をいつてやろう！それで仲直りして会いたい。怒っていてもやつぱり好きだから…

そう思って眠りについた。

次の日に連絡するつもりがあまりにも忙しすぎてしばらく時間が経った。恭ちゃんからの連絡はない。

8月13日

日付が変わってから電話した。恭ちゃんと電話ごしに話をする。恭ちゃんは仕事帰りみたいで車の音がうるさい。素直になれず意地



をはって自分からはあやまらなかった。そつけない態度をとっていた。電波が悪く電話が切れた。

何度電話しても電波が悪くてかからない。しまいには圏外になり、外にでて電話する。外は雨が降っていた。恭ちゃんはでない。何度かけてもでない。

諦めて部屋に戻ろうとするとメールがきた。

電話が切れてあたしの携帯の電波が悪かった時に送られてきたメールだった。もう30分以上経っていた。

【大好きだよ。俺が悪かった。ごめんね。仲直りしよ？】

それからあたし達は二度と会う事も連絡とる事もなかった。とる事ができなかった。会う事が出来なかった。悲しい別れだった。

素直になれずにつまらぬ意地をはって終わった。最期にあたしも好

きだよって言わずに終わった。

最初は立ち直れなかった。恭ちゃんのかわりなんていなかった。誰でもいいわけじゃない。恭ちゃんじゃなきゃだめだった。

それから一年、恭ちゃんと出会った5月が訪れた。

今は前にすすんでいます。恭ちゃんと一緒じゃないけど想いはずっと  
…心はずっと…恭ちゃんだけだから。

ありがとう。

大好きです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5672a/>

---

8月13日

2010年12月14日21時25分発行